

DEBUT 首長

奈良県生駒市長 小紫 雅史氏



こむらさき・まさし 1974年兵庫県小野市生まれ。97年一橋大法卒、環境庁入庁。03年米シュラキュース大大学院行政経営学部修了、07年在米国日本大使館1等書記官。11年秘書課課長補佐で退官し、公募の生駒市副市長に就任。15年4月、前市長の知事選出馬に伴う生駒市長選に立候補し当選。小学校2年の長男を頭に二男一女の父。子育て真っ最中。

中古住宅に新住民呼び込む 地方創生には人材が重要

生駒市 奈良県北西部にあり、大阪市中心部から電車で20分程度のベッドタウン。人口約12万人。1960年代から近畿日本鉄道による宅地開発が進み、一部では高齢化、空き家問題が深刻化している。奈良市、大和郡山市とともにリニア中央新幹線の途中駅誘致に名乗り。国の環境モデル都市に指定されている。

——1971年の市制施行以来、ほぼ一貫して増加を続けてきた人口が、2014年に微減に転じた。市内の大規模開発が終わり、造成が早かった住宅地では高齢化が進んだためだ。

市の予測では2018年までは人口が増えることになっていたが、住民基本台帳ベースで260人減少した。減少が一時的なのかどうかは分からないが、現在25%の高齢化率は上昇し、高齢化のスピードも早くなるのは間違いないので、移住促進や空き家対策などは進めている。

市内の宅地開発を進めてきた近鉄と昨年、空き家や中古住宅の流通促進を進める協定を結んだ。国の補助金を活用し住宅診断を無料で実施してリフォームを促し、売却や賃貸する場合に

はリフォーム費用の3分の1を補助する。新規住民の流入につなげたい。

——子育て世代の移住を促すためプロモーションにも力を入れている。

春に生駒への移住を検討している人を対象にした市内バスツアーを行った。生駒山の眺めの良いカフェで昼食をとり、実際に市内を回ってもらい教育・子育ての環境が整っていることをアピールしている。

実際に電車でも来てもらえれば、大阪から近いことを実感してもらえる。さらに中学校まで給食があり医療費が無料。幼稚園には3歳から入れ、保育園の待機児童が少ないことなど、生駒の子育て環境の良さを理解してもらえる。バスツアーは秋にも行う予定だ。

大阪の映画館では、家族向け映画の本編上映の前に、市民に制作してもらう1分間のPR映像も流す。11月から1月までを予定している。

——「地方創生には人材が重要」と、副市長時代から採用試験の改革に取り組んでき

た。13年度の採用試験から一般教養試験をやめ、民間企業でも導入しているSPI（総合適性検査）3を導入した。

従来の公務員試験では、事務処理能力の高い人が多く集まる。もちろんそうした人材も必要だが、自治体間競争は激しくなる一方で、こうした時代には、様々な提案を出し、チャレンジ精神の旺盛な人材が必要になる。

SPI3である程度受験者を絞り込み、1人当たり合計4、5回の面接を行う。公務員試験向けの特別な受験勉強が必要ないので、様々な人材が集まるのが、最大のメリットだ。わずか十数人の採用にもかかわらず、受験者も二百数十人から約1000人に増えた。面接が増えたため職員は大変だが、試験改革で多くの優れた人材が確保できるようになったと自負している。

（聞き手は

奈良支局長 松田 隆）